

メシア宣言とイスラエルの教師の来訪

□前回のハイライトからのつながり

イエスの受洗と誘惑 (メシアとしての公生涯の開始) 紀元 26 年秋

- 最初の弟子たち 5人 (ヨハネ 1:35~51)
- 最初の奇跡 ガリラヤのカナにて 婚礼の披露宴 水をぶどう酒に変えた (ヨハネ 2:1~11)
- 母と弟たち、弟子たちと共に、カペナウムに短期滞在 (ヨハネ 2:12)

メシア宣言とイスラエルの教師の来訪 紀元 27 年春

I. メシア宣言 紀元 27 年春、過越の祭り、エルサレムの神殿にて

A) 神殿から商売人を追い払った (ヨハネ 2:13~17)

さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。そして、**宮**の中で、**牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たち**を見て、細縄でむちを作って、羊も牛もみな宮から追い出し、両替人の金を散らして、その台を倒し、鳩を売っている者たちに言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家にしてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が私を食い尽くす」と書いてあるのを思い起こした。

- 宮： エルサレムの神殿。バビロン捕囚帰還後、紀元前 517 年に再建された第二神殿。
- 牛や羊や鳩を売っている者たち、両替をしている者たち： 神殿でささげる犠牲の動物を売っている者たち、神殿税を納めるための銀貨をローマの銀貨から両替する者たち。いずれも大祭司一族のファミリー企業の配下。ファミリー企業のトップは、前の大祭司アンナス。その時の大祭司カヤパは、アンナスの娘婿。
- 大祭司一族の利権と横暴を問題視する人々は、「アンナスの息子たちのバザール」と呼んでいた。

- 「あなたの家を思う熱心が私を食い尽くす」：詩篇 69：9、メシア預言である。「あなたの家」とは神の家、すなわちエルサレムの神殿、「私を食い尽くす」とは、周囲の人々がメシアを容赦なく攻撃する、ということ。イエスが神殿から商売人を追い出したことで、大祭司一族、そして祭司階級が多く属するユダヤ教サドカイ派は、イエスを敵視することになった。3年後にイエスを捕らえ、ユダヤ議会の裁判にかけたのは、アンナスとカヤパであった。なお、ユダヤ議会の議長は大祭司。政治と経済と宗教、3つの実権を掌握。

- B) ユダヤ指導者層からの要求＝メシアであることのしるしを見せろ（ヨハネ 2：18）

すると、ユダヤ人たちがイエスに対して言った。「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。」

- C) イエスの応答（ヨハネ 2：19～22）

イエスは彼らに答えた。「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる。」

そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに46年かかった。あなたはそれを三日でよみがえらせるのか。」

しかし、イエスはご自分のからだという神殿について語られたのであった。それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばを信じた。

- 46年： 紀元前19年頃からヘロデ大王によって大規模な神殿改修工事が始まり、紀元前4年のヘロデ大王の死を経ても工事は継続していた。イエスがメシア宣言をしたこの年は、改修工事着工から46年目。

- D) 祭りの期間中、イエスは多くの奇跡をおこない、それを見た多くの人々がイエスをメシアであると信じた（ヨハネ 2：23）

II. イスラエルの教師の来訪

A) 来訪者は、ニコデモという名の人（ヨハネ3：1）

1節 さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人¹がいた。ユダヤ人の議員であった。

- **パリサイ人** = ユダヤ教パリサイ派の教師ラビ
- **ユダヤ人の議員** = ユダヤ議会 71人の議員の一人、指導者層の一員
- 「**イスラエルの教師**」（ヨハネ3：10） = ユダヤ教ラビ（教師）を養成する学校の校長

B) この後に使われる二つの用語、それらとパリサイ派の教えとの関係

1. 「**新しく生まれる**」 = 人の生涯における節目を指す。ユダヤ教パリサイ派では6つの新生があると教えた（まず4つ、成人13歳、結婚、ラビ、ラビの校長。さらに特殊なものが二つ、王になる時、異邦人の改宗）
2. 「**水によって生まれる**」 = 「水」は男性の精液を示し、「水によって生まれる」とは、人が肉体をもって誕生することを意味する。パリサイ派では、ユダヤ人として生まれたなら、もれなくメシアの王国に入れる、と教えていた。

C) ニコデモの来訪目的（ヨハネ3：2） イエスがメシアかどうか確認する

2節 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。

「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

D) イエスの応答（ヨハネ3：3） 新しく生まれなければ神の国に入ることはできない

3節 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

- イエスがメシアであれば、神の国は近い。イエスがメシアであるかどうかを確認しに来たニコデモに対し、イエスは神の国に入るため

には踏むべきステップがあることを教える。ニコデモはパリサイ派の教師として、ユダヤ人であれば、皆が神の国に入れると考えていたからである。

- E) ニコデモの質問 (ヨハネ 3:4) 【6つの新生のうち、自分ができる4つはすべて経験済みである】→ニコデモはとまどって、「もう一度生まれ直して、新生をあらためて経験すべきなのですか?」と問い返す。

4節 ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることができるでしょうか。」

- F) イエスの回答 (ヨハネ 3:5) 【パリサイ派の教えは間違っている。ユダヤ人として生まれただけでメシアの王国に入れるわけではない】→「肉体の誕生に加えて、神の霊によって新しく生まれることが必要である」

5節 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。

- パリサイ派は、ユダヤ人であれば、それだけで神の国に入ることができる、と教えていた。つまり、「水によって生まれるだけで、神の国に入れる」と教えていたわけである。
- 水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない：パリサイ派の教えは間違っている。人は肉体の誕生に加えて、神を信じて神の霊によって新しく生まれることが必要である。

- G) 続いてイエスは、御霊によって生まれるとは、どういうことを教える (ヨハネ 3:6~8)

6~8節 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

- 肉によって生まれた者は肉です： 人が親から生まれる誕生は肉体の誕生であり、その内側には罪の性質を宿している。新約聖書では、罪の性質を肉とも呼ぶ。
- 御霊によって生まれた者は霊です： 信者は、神の霊によって新しく生まれた者である。霊的な新生のときに、肉体が何か変わるわけではないし、内側の罪の性質がなくなるわけでもない。しかし、信者の内側には新しい性質が与えられていて、神の愛に応答しようという願いが湧き出る。この新しい性質を、新約聖書では「霊」とも呼ぶ。この新しい性質に従っていこうとするのが、信仰生活であり、それによって信者の生き方が変わるのである。
- 風は思いのままに吹く： 神の霊は風にたとえられる。風がいつどのように吹くかは、人はわからない。人は神の霊によって信仰に導かれ、信じて霊的に新生するが、それがいつどのようにしてか、人には分からない。
- その音を聞く： しかし、風が吹いたことは風によって動かされた物の音によって分かる。同じように、人が霊的に新生したことは、その人のそのあとの生き方によって分かる。

H) ニコデモは霊的な新生について聞かされて驚く。ニコデモは、イスラエルの教師、すなわちユダヤ教の教師を養成する学校の校長である。イエスは、あなたは校長なのに、そのことを知らないのかと、言う。イエスのこのことばが何を意味するかというと、【旧約の聖徒たちはみな、霊的な新生をした信者であった。そのことを知らないということは、聖書を知らないことだ】と、イエスはニコデモに悟らせたのである。（ヨハネ3：9～10）

9～10節 ニコデモは答えた。「どうして、そのようなことがあり得るのでしょうか。」イエスは答えられた。「あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。」

I) 次にイエスは、ニコデモが知らない第二のことを教える。イエスは神が人となられたお方だ、ということである（ヨハネ3：11～13）。旧約聖書のメシア預言には、メシアの神性についての預言が多くあるが、ユダヤ教パリサイ派ではその理解ができていなかった（参照 マタイ22：41～46）。

11～13節 まことに、まことに、あなたに言います。**わたしたち**は知っていることを話し、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるでしょうか。だれも天に上った者はいません。しかし、**天から下って来た者、人の子**は別です。

- ニコデモの来訪のときのことば「先生。私たちは、あなたが**神のもとから来られた教師**であることを知っています」に応じて、まさにそのことばのとおり、イエスはご自分が神のもとから来たことを明らかにした。
- 神とご自分を「わたしたち」と呼び、ご自分を「**天から下って来た者、人の子**」である、と教えた。「人の子」とはメシアの称号。イエスは、神が人となられたお方である。

J) ここまでのイエスの教えをまとめる。イエスは、人が永遠のいのちを受けて神の国に入りたいたいのであれば、二つの理解を持つ必要があることを教えた。第一に、霊的に新生する必要があること。第二に、イエスは神が人となられたお方であると認めること、である。

K) この二つの理解を持ったうえで、次に、霊的に新生するための具体的なステップを、イエスはニコデモに教えた（ヨハネ3：14～15）

14～15節 **モーセが荒野で蛇を上げた**ように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

- モーセが荒野で蛇を上げた：民数記21：4～9での出来事。毒蛇に咬まれた民が、旗ざおの上に付けられた青銅の蛇を仰ぎ見るなら、死なずに生きた。
- 人の子（メシア）が十字架の上にあげられる。それを仰ぎ見るなら、死から救われ、永遠のいのちを持つ。

- 救われ、永遠のいのちを受けるための、二つのステップ
 - ✧ 第一ステップは神の側による、人の子を上げる（十字架の死）
 - ✧ 第二ステップは人の側にある、それを仰ぎ見るなら死から救われるという神の約束を信じる

L) 使徒ヨハネは、この二つのステップについて、あらためて語る。これは福音の中の福音である（ヨハネ3：16）

16節 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。